

ブリストル大学での留学を終えて

法学部 南雲 菜々

【留学の理由・目的】

私は元々英語を学ぶことが好きで、将来は英語を使いながら国際社会で働けるような人材になりたいと思っていました。そのため、高校生の時から留学することを決めていました。そして、大学に入り専門分野を学ぶ中で、特に難民・移民問題に関心を持つようになりました。近年の難民急増に伴い、国際的にも様々な問題が生じ、政策を見直さざるを得ない局面となっていますが、日本は難民問題があまり表面化していないという現状があります。そのため、実際にこの問題をより身近に感じられるような環境で国際関係について学びたいと思い留学をしました。

【留学先での学習・活動と生活の環境】

最初の約2カ月間は大学の語学コースに通い、寮では中国人の大学院生とルームシェアをしていました。9月からは自分の学びたい専門分野を選んで学修し、寮も同時期に別の場所に引っ越すことになりました。

さらに実践活動としては、貧困に苦しむ人々や途上国を支援する国際協力団体の Oxfam が運営するチャリティショップでボランティアとして働いていました。歩いていける範囲にたくさんお店があるので生活環境は充実していましたが、地価や物価が高いため寮の費用や生活費は思っていた以上に掛かりました。

【どんな授業を履修したか、授業での課題について】

主に国際関係学に関する授業を履修しました。授業は講義形式と少人数で行うセミナーから構成されていて、事前に与えられたトピックについて文献を読み、議論をした上で、学期末のレポート提出をすることが課題でした。

また、より広い視野を持つため、人文地理学に近いような科目も履修し、同じような問題を多方面から分析できるような知識を身に付けることを心がけました。

【大まかなスケジュール、時間割など】

語学コースに通っていた期間は朝から夕方まで授業があり、寮と学校の行き来で1日が終わってしまう感じでした。9月からは授業のコマ数自体は減りましたが、予習と復習に時間を掛けなくてはいけないことが多かったです。ボランティア活動は毎週土曜日の午後に行っていました。

【印象に残った留学中のエピソード】

留学中はたくさんの国の人と会話をする機会がありましたが、日本のことを知っているだけでなく、実際に訪れたことがある人も多くいて驚きました。みんなが日本について良いイメージを持ってくれていたことはとても嬉しかったです。

【留学して学んだこと】

何事に関しても自分の考えをしっかりとって、それを言葉で表現することの重要性を学びました。留学先では「あなたはどう思っているか」と聞かれた時に、すぐに答えられる学生ばかりでした。自分にはまだそのような力が不足していると思うので、もっと知識をつけた上で、積極的に他人と考えを共有しあえるようになる必要があると実感しました。

【語学がどのくらい上達したか】

語学コースでは高度な文章の書き方や効果的なプレゼンの仕方等について、日本では教わらなかったようなことを学ぶことができました。また、授業を通して多くの専門用語に触れることで読み書きや聞く力はもちろん高まったと感じますが、やはり話す力が格段に上達したと思います。ボランティア活動での接客等は特に日常会話の習得に役立ちました。渡英から数週間して英語で夢を見るようになったくらい、気がついたら喋りたいことがすんなり口から出るようになりました。

【留学を薦める理由】

留学は事前準備の大変さや金銭面の問題から踏みとどまってしまう人もいるかと思いますが。しかし、異文化の中で他言語を使い何かを学ぶということ得られるものはとても大きいです。色々なバックグラウンドを持った学生と交流し、議論を交わし考えを深めていく中で、とても良い刺激を受けました。勉強面だけでなく、何事も広い視野で物事を見る力が身に付くので、留学は時間やお金に変えられない価値があるものだと思っています。

【トビタテで留学して良かったこと】

トビタテは申請の段階から、自分の留学計画をかなり細かく作成することが求められるため、留学目的を明確にすることができ、留学に対するモチベーションが上がります。そのおかげで留学中も、自分が何のために留学しているのかということ意識しつつ生活できました。また、事前研修などを通じ、多くの若者とネットワークを築くことができるのもトビタテの良さです。もちろん金銭的な支援が手厚いことも魅力ですがそれ以上に、留学を成功させるためのサポートが段階的に組み込まれていることが最もトビタテで留学してよかったと思う点です。



